

地震想定防災対応学ぶ

伊勢 地図描き対応協議

地震が発生したとき、避難所運営を練習する「災害図上訓練」が、二十四日、伊勢市楠部町の市防災センターであった。

協議会が、地域防災のリーダーを養成しようとして企画。地元で防災委員を務める住民や市職員ら約百三十人が参加し、十七班に分かれて避難所運営に



次々と出される課題への対応を話し合う参加者＝伊勢市楠部町の市防災センターで

ついて話し合った。訓練では班ごとにまず、同地区の白地図に道路や川、避難所などを描き込んだ。その地図を使いながら、震度6弱の地震が発生したとの想定で、避難所運営を考えた。

「防災備蓄倉庫はどこにある」という課題では、班の誰も場所を知らず、会場にいた市

会場のスクリーンに五十分おきに「通町と黒瀬町で火災が発生」「避難所で物資不足」などと課題が映し出され、参加者は時間に追われながら対応を協議。

職員に助けを求める場面もあった。浜郷地区まちづくり協議会は、今回の経験

郷小学校で避難所運営の実践訓練をする。協議会の西本文平防災総合委員長は「災害時にどう動くか、日常的に考える人なんていない。想定する機会をつくるのが大切」と話していた。
(青木ひかり)

9月26日 中日新聞朝刊